

令和元年度 静岡市立宮竹小学校 学校だより

宮竹っ子

臨時号 令和元年10月23日

令和元年度全国学力・学習状況調査の調査結果をお知らせします

今年も4月に、6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査が行われました。8月に文部科学省より提供された調査結果をもとに、本校の児童の状況についてお知らせします。

(1) 本校の学力調査の結果について

○国語・算数ともに全国平均を下回っています。

国語・算数とも本校の平均正答率は58%で、全国平均よりも数ポイント低い結果となりました。国語の「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の工夫として適切なものを選ぶ」や「文と文の意味のつながりを考えながら接続後『そこで』を使って2つの文に分けて書き直す」問題では全国平均を上回りました。

▲文章を読み取る力や、難しい問題に取り組もうとする意欲に課題が見られました。

昨年度まで、基礎を問う問題(A)と活用する力を測る問題(B)に分かれていましたが、今年度の問題は一括して問う問題形式になりました。漢字や計算も問題文を読む中で答える形式になったため、問題を見て諦めてしまった、答え方がわからなくて書くことができなかつたなど、無回答率が高い傾向にありました。

(2) 本校の学習状況調査の結果について

○生活リズムは安定しています。算数が好きな子が多いです。

「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝て(起きて)いますか」という質問に対しては良好な状況が見られました。「算数の勉強が好き」「大切」「将来役に立つ」の解答が全国平均よりやや多く、「新しい問題に出会った時解いてみたい」「もっと簡単に解く方法がないか考える」と学習に対して積極的な姿勢が見られました。

○「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と思っている子が多いです。

「自分によいところがあると思いますか」の問いに対し、80%の子が思っていると答えています。また、「将来の夢や目標を持っていますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いにそう思うと答えている児童の割合も全国平均よりも高かったです。

▲読書好きの子、自分で考え取り組む子、身近な地域に関心のある子を増やしていきたいです。

「読書が好き」と答えた子は62.8%、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた子は64.7%、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた子は40%と全国平均に比べて大幅に低い結果となっています。活字を読むことが学力向上につながると言われています。学校では読書を好きになる取り組みをしますので、家庭でも読書をする時間を確保していただければと思います。また、身近な問題を取り上げ、視覚的に捉えやすくして、自分で考える経験を学校でも家庭でも増やしていきたいです。

全国学力・学習状況調査から考える、宮竹小のこれからの取組

●「できた」「わかった」を実感できる授業

全国学力学習状況調査の結果から、読み取りに苦手意識のある児童が多いことがわかります。普段から少し長い文章を読んで「できた、わかった」という経験を積み、読む力や習慣をつけていけるよう授業改善を図ります。そのためには、視覚的支援や「やってみよう」と思えるような課題を大事にしていきます。

●伝え合うことを大切に学習を展開します

問題に出会った時に解いてみたいと思い、自分の考えを友だちと伝え合うことで深めていく、主体的な学習を大切にします。解き方が分からない時にも諦めずに粘り強く学習する姿勢を育成するために、自分たちの力で解決する経験を積み重ねていきます。

●自分で計画を立てて家庭学習を!

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の割合が63.8%と全国に比べ7.7%低くなっています。

- ・自分で時間を決めて勉強しているか?
 - ・毎日読書する時間があるか?
 - ・ゲームやスマホをする時間は長くないか?
- 家庭学習の習慣は、中学校にもつながります。

●地域とのつながりを大切に

「今住んでいる地域の行事に参加している」の割合は62%で、全国に比べ8%低い傾向でした。ご家庭でも地域防災訓練や地域の行事等に参加し、地域や社会の出来事について家族で話すなど、地域に関心をもち、つながりを大切にしてほしいです。